

鷺照吟詠会

会報 第二十三号

行 公益社団法人
関西吟詩文化協会
公認鷺照吟詠会

『一語一縁』

身近な人に声をかけて

吟の輪を広げていきましょう！

会長 大取 鷺照



せていただきました。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。

出合いと別れの季節でもある春が巡ってまいりました。会員の皆様にはお元気で楽しく吟詠活動に励んでおられることとお慶び申し上げます。

今年、新年早々能登地方で大地震が発生し、多くの方が被災されました。心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より祈念申し上げます。会としても義援金を集めて協力さ

さて、新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ五類に移行して十箇月。社会経済活動も活発になり、吟詠活動もほぼ通常通りに行けるようになりました。これからは会を離れた仲間にも、また身近な人に『一語一縁』声掛けをして、吟友の輪を広げてゆきたいと思えます。目標は、一教室一名の増員です。本部も今年から新たに会員増員キャンペーンを実施します。頑張りましょう。

昨年は、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で日本代表が優勝し、元氣ももらいました。また、岡山大学吟詩部師範の木谷暁秀先生が、全

国指導者級吟士権者決定吟詩大会・吟士権の部において優勝されました。おめでとうございませす。会始まって以来の快挙です。十七年間の岡山大学吟詩部での指導と、たゆみない練習の成果が実ったのでしよう。先生のこれから益々のご活躍を祈念致します。

そして、関西吟詩文化協会総本部九〇周年記念大会も、全国四地区で盛会裡に開催されました。岡山から七十二名が参加し大変好評でした。

今年も競吟大会、集い、常任理事会、吟詠研修会、初吟会など『仲良く、楽しく、健やかに』のスローガンのもと、積極的に諸行事を開催していきたいと思えます。会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

今年度は役員改選期にあたり、三月の総会で新役員が選出されました。新役員の先生方、会の発展のためご協力よろしくお願致します。

来年は、本会創立七〇周年を迎えます。昭和三十年に故佐藤鷺照先生が岡山の地に初めて関西吟詩の教場を開設されてから七〇年。これから一年かけて準備をし、思い出に残る記念大会にしたいと思えます。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

令和六・七年度鷺照吟詠会役員

相談役	永井 徹照 (江陽)
〃	鈴木 暁照 (稍雲)
会 長	大取 鷺照 (中山)
副会長	内田 菫照 (皐月)
〃	中山 瞳伸 (稍雲)
〃	河田 轟声 (中山)
事務局長	内田 菫照 (皐月)
次 長	河田 轟声 (中山)
理 事	花房 鶴笙 (稍雲)
〃	剣持 懂照 (総楽)
〃	片山 鷺丘 (総楽)
〃	大取 鷺照 (中山)
〃	坂本 繡照 (岡南)
〃	中山 瞳伸 (稍雲)
〃	多田 葦照 (有朋)
〃	石田 燃照 (有朋)
〃	木谷 暁秀 (有朋)
〃	内座 慶玲 (岡南)
〃	池上 醒照 (中山)
〃	石田 燃照 (有朋)
〃	木南 駿照 (中山)
〃	木谷 暁秀 (有朋)
〃	鈴木 徹翔 (江陽)
〃	窪田 礎照 (総楽)
〃	川根 颯照 (江陽)
〃	河田 轟声 (中山)
〃	青木 琥真 (岡南)
〃	木南 駿照 (中山)
〃	鈴木 徹翔 (江陽)
〃	新池 亥照 (吉照)
〃	田辺 通照 (総楽)
〃	木谷 暁秀 (有朋)
〃	内座 慶玲 (岡南)
青年部部長	木谷 暁秀 (有朋)
青年部副部長	内座 慶玲 (岡南)

吟士権の獲得で感じていること 岡山有朋支部 木谷 秀史



吟士権大会当日、予選が終了したので、さっさと帰宅しようとしてロビーに出た際、岡山から到着したばかりの内座由紀葉さんに出くわしました。自分の出番が終わったから帰る旨を伝えたと、先輩(中山理恵副会長)の吟を聴かないのですか。」と数回言われ、再度会場に戻ったところ、決勝に進出したことを知りました。この時に内座さんにお目にかかったのにかつたらと振り返ると、感謝の念しかありません。

さて、決勝吟詠後の結果発表。何と優勝でした。結果発表を冷静に受け止めていましたが、一緒に出吟した鷺照吟詠会の同士や、同じ会場にいた岡山大学吟詩部の先輩(鷺伸吟詠会所属中村雅典さん)といった周りの方々が「大変なことになったぞ。」と騒ぎ、自分事のように

祝福してください。詩吟を昭和六十二年から始めて三十七年たちました。が、振り返ると、周りの方々による温かい支えによって得られたタイトルだという思いをまずまず高めています。今年一月、初吟会にて祝勝会を催してください、吟士権タイトルの獲得という重みをしだいに感じています。今回の吟士権タイトルの獲得の意義について、現在、感じていることをまとめてみます。

一つ目の意義は、学生吟のモットーである『熱吟』『吟魂』を大切にしてきた岡山大学吟詩部の吟が全国で認められたことです。吟士権大会に出吟された方々による研ぎ澄まされた音回しや音程、表現力は誠にすばらしいもので、全国大会にふさわしいものでした。そういった中で、私自身がみなさんと同じような吟をしようとしても歯が立たないことを承知の上で、誰にも負けない迫力と流れを表現することに徹しました。迫力と流れは、私を詩吟の世界にいざなってくださった鈴木暁照師範をはじめとする諸先輩方の教えによるもので、岡山大学吟詩部時代から追求してきた表現方法です。今はマイクを通して吟を届けるのが当たり前なので、詩吟は本来、マイクに頼らずに思い切り声を出して己の魂

を表現するのだと信じてきました。学生吟のモットーである『熱吟』『吟魂』が評価され、吟士権タイトルをいただくことができたことは意義深いことと思っています。

二つ目の意義は、鷺照吟詠会の名を全国に広げることができたことです。創始者である故佐藤鷺照先生が岡山の地で詩吟の種をまかれておよそ七〇年、吟士権のタイトルを初めて持ち帰ることができたのも、諸先輩方によるたゆまぬ努力と工夫の成果だと思っています。本会は創設以来、詩吟という表現の練磨とともに、漢詩の意味解釈を味わうという鑑賞の場を随所に設けてきました。表現と鑑賞を一体化させた、いわば車の両輪がうまく回るような活動を大切にしてきました。さらに老若男女、会員同士が和気あいあい、笑顔が絶えない雰囲気も大切にしてきました。そういった鷺照吟詠会の魅力を証明することができたのではないかと考えています。私自身、鷺照吟詠会の中で様々なことを経験させていただいていることが、吟力向上や本会の発展に寄与したいという気持ちが高めることができたと思っています。競吟においてそれなりの成績を残すには、詩や吟の知識や技能を極めることは言うまでもありませんが、それ

だけでは詩吟の楽しみは生まれず、成績上位にも入ることができないと思っています。「学生吟出身」「岡大吟詩部の顔」「岡山有朋支部代表」「鷺照吟詠会会員」という緊張感のあるプライド、会員同士と一緒に活動して生まれる仲間意識の二つが両輪となつて、詩吟の楽しみと競吟における成績上位を生むのではないかと思っています。

最後に、「令和六年能登半島地震」が元日に起き、被災された方々の生活が早く戻ることを願って止みません。同時に日常生活の中で詩吟を当たり前のよう楽しむことのできる喜びをかみしめながら、今後も謙虚に吟詠活動をしていきたいと思っています。

未来につながる和の心

岡山梢雲支部 中山 暉伸

去る十月二十九日、本会創立九〇周年記念全国吟道大会・関西地区大会が、尼崎市総合文化センター（アルカイックホール）にて、盛会のうちに開催されました。

一八〇〇名収容の大ホールはほぼ満席となる予定で、席は指定となりました。岡山地区連合会（鷺照吟詠会と岡山鷺照会）からも七十二名が参加しました。

ここ数年のコロナ禍で、詩吟

活動は制限され、会員も著しく減少しました。果たして従来通り周年大会が開催できるのか？危ぶまれましたが、本部執行部におかれましては予算を削減するなど工夫を凝らし、実現に漕ぎ着けて下さったことは、感謝に堪えません。

当日の様子などは、事前に配布された豪華なプログラムや『吟詩日本』二〇四号などに詳しく掲載されていますので、ここでは割愛致します。

舞台の感動を詳しくお伝えしたいのですが、当日私は司会係で、ほとんど舞台袖におりました。それでも青年部の詩吟も余技（民謡・踊り・三味線など）も素晴らしかったことや、自分

は苦手な俳句朗詠を、指導部の先生方が楽々と朗詠される姿など印象に残りました。むろん、後の楠木正行を語った構成吟『ひとすじの道を』は圧倒的でした。詩吟は力強く、言葉が胸に刺さるようでしたし、ナレーターの表現力にも度肝を抜かれました。私が特に感動したのが、出演者全員による男女混声合吟です。男女の吟声が調和して、美しいなあと感じました。

もう一つお伝えしたいのは、地区吟詠についてです。テーマ『吟心百景』を聞いて、真っ先に思い浮かんだのが会祖・佐藤鷺照先生のことでした。八分とい

う短い持ち時間ですので、鷺照先生を想起させる『思親』と『九月十日』さらに、先生が詠まれた和歌『支えられ』を選びました。木谷先生が思い出の写真を上手く取り入れて素敵なDVDに仕上げられました。

先生が逝去されてもう四半世紀です。紆余曲折がありました。が、先生のカリスマ性と、創業から力強く先生を支えて来られた先輩方のご尽力が今の鷺照吟詠会につながっていると思えます。

詩吟の未来への懸念は決して消えませんが、ひとつひとつ節目を刻んでいきたいと思えます。





「集い」に寄せて

岡山岡南支部 坂本 朋義

○ひととせの 締めくくりこそ
尊けれ 吟の集いや 健やか
家族

○各支部の アイデア満載 な
ごやかに 吟の華咲く 老い
も若きも

○大合吟 気高き賛歌 菊花に
は 凜としてなお 温かきも
のあり

私がこの会に入会して、
四十七年になります。新型コロナ



ナウイルスもだいぶ収まり、令和五年度の鷺照吟詠会の集いは、十一月二十三日(木)午前十時に開会されました。岡山県労働福祉事業会館をお借りして、会長はじめ副会長、役員の方々、会員の皆様楽しんで、盛大に開催できたことに感謝申し上げます。

支部別吟詠が始まり、それぞれ競吟とは違い、のびのびと素晴らしい声を披露されました。特に私がいつも感動するのは構成吟です。岡南支部も以前は何回か発表したことがあります。最近では構成吟をしていません。また、大正琴とのジョイント、書道吟、茶道吟などいろいろありました。

今後の念願は、岡山総楽支部のような歴史上の人物で挑戦したいと思っています。それにはみっちり時間をかけて練習を積み、頑張りたいと思います。今後とも集いに向けてご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



**岡山大学吟詩部
創立六十五周年記念大会**
「詩吟の種をまきなおす」
岡山大学吟詩部師範 木谷 暁秀
令和五年、岡山大学吟詩部は、昭和三十四年の創部から数えて六十五年目を迎え、十一月十二日(日)に発表大会を行いました。当たり前のようには開催した大会でしたが、振り返ってみると、創立六〇周年記念大会からの五



年の間には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全面活動停止ないしは一部しか認められなかったという苦境に陥ったことがありました。吟詩部は活動を通して人間陶冶を図ることを目標としていますが、活動が絶たれると、あつという間に伝統や詩吟追及のあり方が崩れ、失われることを感じた年月でもありました。感染症が世界的に流行している中であっても、大会だけは毎年絶やさず開催してきましたが、以前と同様の合宿や強化練習など、充実した活動を取り戻すことができたのは今年です。吟詩部の目標を達成するため、創部以来の伝統や詩吟追及のあり方を復活させ、以前に行われていた活動や大会プログラムの内容に戻すことが何よりも大切でした。吟詩部の伝統や詩吟追及のあり方を復活させるのは、植物を育てることにたとえると、土地を耕し、種をまきなおすことと同じことでした。



四年ぶりに開催された「初吟会」に初参加
 岡山中山支部 大倉 時男

長かった新型コロナウイルスの流行でイベントの中止や飲食が制限されていましたが、我が会も少しずつ活動が自由になって来たと思います。そんな中、一月四日にピュアリティまきびで「初吟会」が四年ぶりに開催



されました。大取会長はじめ各先生方、会員のみなさんの吟とともに、私も大学時代を思い出して、本宮三香の『吟詠』を吟じました。

また、昨年関西吟詩文化協会総本部の指導者級大会で優勝された木谷秀史さんの祝賀会では、初の快挙に会場が沸きました。懇親会ではカラオケのお手伝いをしていたのですが、『刃傷松の廊下』など、リクエストが多く、忙しい中にもとても楽しませていただくことができました。

私事ではありますが、暫く吟詠から遠ざかっておりましたが、昨年のOB会で先輩から誘われ入会しました。練習でお腹から声を出すとスッキリします。皆さん熱心で良く教えて下さいます。

話しは変わりますが、昨年十一月の「鷺照吟詠会の集い」では、他支部の方の吟も聞けて良い勉強になりました。私自身還暦を過ぎて、いろんな事に挑戦しようと思っています。

まだ入会して日にちが浅く、はなはだ僭越ですが、会の発展のための提案として、①SNSを活用した広報活動、②学校でのPR、③他の文化団体とのコラボなどが少しずつでもできたらと思っています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

